

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-032	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Hazardous alcohol consumption is associated with increased levels of B-type natriuretic peptide: evidence from two population-based studies. 多量飲酒と BNP の増加との関連：2つの集団ベースの研究からの知見		
執筆者		
Leon DA, Shkolnikov VM, Borinskaya S, Casas JP, Evans A, Gil A, Kee F, Kiryanov N, McKee M, O'Doherty MG, Ploubidis GB, Polikina O, Vassiliev M, Blankenberg S, Watkins H.		
掲載誌		
Eur J Epidemiol. 2013 May;28(5):393-404. doi: 10.1007/s10654-013-9808-9. Epub 2013 May 5.		
キーワード		PMID
過度の飲酒、BNP、Russia、Izhevsk		23645505
要 旨		
<p>目的： ロシアにおいて循環器疾患死亡は非常に多く、大量飲酒がその一端を担っているだろう。本検討では B-type natriuretic peptide (BNP) を含む CVD のリスク予測因子とアルコールとの関連について調査する。BNP は心室壁の異常な進展によって増加し、動脈硬化同様にその他の要因による心筋へのダメージによって引き起こされることが知られている。またこれまでに一般集団ベースでアルコールとの関連について検討した報告はない。</p> <p>方法： 2008～2009年にロシアの Izhevsk で実施された Izhevsk Family Study 2 をもとに 25～60 歳の 933 人の男性の飲酒様式のデータを横断的に分析した。</p> <p>結果： 非飲酒者との比較では、多量飲酒者の、年齢・肥満・腰臀部比・喫煙の調整を実施した BNP の上位 20% に分布するオッズは 4.66 (95% CI 2.13-10.19) であった。さらに高血圧の階層の調整を実施するとオッズ比はわずかに僅かに減少した。この結果は、飲酒が血圧に影響を与えることによる二次的なものではないことを示唆している。逆に多量飲酒は、ApoA1 と HDL コレステロールの値を著明に上昇させた。しかし、ApoB と LDL コレステロールのレベルには、ほとんど影響を与えなかった。また、1991年にイギリスの Belfast で実施された PRIME 研究の集団では同様であったがより弱い関連がみられた。</p> <p>結論： これらの知見により多量飲酒による CVD リスクの上昇は、部分的にはアルコールによる非動脈硬化性の心筋に対する障害作用によるものかもしれない。</p>		